文芸 さくらがわ

俳句

【一般投稿】

篠突く雨たたける強さかすみ草　長堀　芳江

短歌

【花の室　木崎集】

ひとは去り三年過ぎぬ猫も去り帰らねばならぬ理由はあらず　塚田　沙玲

黄金色にさっくり揚げし豚かつはキャベツとソースで新たな力　石浜　今日子

思おえず腰に手をやりハッとするまだ六十の若者なのに　大久保　まさ子

七夕の星に願ひを書きたるは墨色淡き芋の葉のつゆ　塩谷　明子

わたくしが造る料理は大皿に不細工ですと飾れば足りる　松田　早苗

太極拳本部道場開放の大きな鏡に演舞を写す　塚本　幸子

百四十四年の閉校式の児童の言葉「真の心」しかと伝わる　西岡　和子

水田に足跡深く刻みつけ六十路余りの君ゆきたまふ　野村　幸男

闇の夜に救急車の音ご近所へ（どうぞご無事で）心に叫ぶ　山田　洋子

落ちてなおほほえむごとも夏つばきそつとふれたし白きその頬　奥田　豊子

【岩瀬短歌会】

さはやかな若葉の光ふる中にこれで三度目の入院となる　萩原　きしの

草引きてやれやれ一服番茶のみ孫がもて来し大福を食ぶ　大関　にち子

十薬は胃腸に良いと言はるるが根はりなかなか鍬で戦ふ　泉　三郎

掌に溢るるほどの薬のみ痛みをかこつ術後二十日余　小林　美瑳子

令和の代万葉集に関心のあるひと集いよ共に学ばん　浜野和　操

松の間をしづかに出でます天皇に映像なれど頭を垂るる　広沢　日出子

ペダルこぎ幼児ら元気に「こんにちは」団地の散歩に心なごめり　久保　悦子

季うれていよよ勢うパンジーは小鉢あふれて小径を塞ぐ　石田　守子

多すぎても少なすぎても駄目と言ふ一日に飲むべき水分の量　鈴木　英雄

妹の四十九日忌近づきて都忘れの青が目に沁む　渡辺　しな子

しゃくなげ色に春の夕暮れ染まりたり遠くの峰にふと手を合わす　浅賀　順子

パタパタと手アイロンして干すシーツ梅雨の晴れ間の空に翻る　古賀　澄

麦の芒するどく天に向きて伸びここちよきかな風ひかる畑　瀧井　幸子

満月へ届けとばかり一斉になく蛙のこえ早苗田ゆるがす　大久保　富美江

俚謡

【さくら俚謡会】

何処へ行っても冷茶の馳走廻る新盆味気ない　山もみじ

妻のでっかいお尻に敷かれたまに蹴飛ばしたくもなる　花野　しぐれ

漬けた梅の実娘の自慢届き嬉しい御中元　みなの川　遊

耳の遠さはどっちもどっち熱燗たのべばお茶がでる　稲葉　建正

久し振りだな一杯やろか亡兄がひょっこり顔を出す　田　哲人

通所介護（短時間・1日）リハビリテーション部
居宅介護支援（ケアマネージャー）
リハビリハート総合介護ケアセンター
理学療法士 本橋寛樹
介護のご相談・リハビリ無料体験ご送迎も可能
0296-73-6965
桜川市西桜川2-18-5(50号沿い)　唔寶さん・茨城トヨタさんとなり